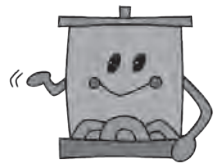


こっちゃ来い〜



まちとしよ

～大石田町立図書館 information～



Web OPAC
PC・スマホ版

- ◆ ☎35-3877 ◆ 公式HP <http://niji.town.oishida.yamagata.jp/library>
- ◆ 大石田町立図書館蔵書検索システム(WebOPAC)から蔵書の検索や貸出状況、新着情報の確認などができます。利用者登録をしている方は、貸出中の図書を予約することができます。詳しくは図書館にご確認ください。

- 開館時間 午前9時～午後7時(日曜日・祝日は午前9時～午後5時)
- 休館日 毎週木曜日(祝日の場合翌日) 《9月の休館日》3日(木)、10日(木)、17日(木)、24日(木)

読書会 全三回(一回のみの参加も大歓迎!)

「声でたのしむ源氏物語」

第三回 日時 9月5日(土) 午後2時～午後3時半

※今年度は最後の開催となります。

会場/虹のプラザ 2階中会議室

講師/大場 玲子氏
(町内出身・元高校国語科教員)

参加費 無料

待望の声にお応えし、三回シリーズで開催。解説や朗読を交えながら楽しみましょう!

えほんとよみきかせをたのしむ会

おとなから子どもへ伝えるおもしろいおはなし

こどもの本の「今」と、絵本と読み聞かせの魅力について語り合う一時間。

読み聞かせ団体さんからのおすすめ本や、新刊本の紹介もあります♪

●対象 絵本や読み聞かせに関心のある方、子どもと接する機会のある方等

●持ち物 おすすめしたい絵本や幼年童話(図書館からも借りられます)

きがるにどうぞ

参加費無料/申込不要

9月2日(水) 14時～15時 虹のプラザ 小会議室3

今月は、どの本を読む?

『名前のないカフェ』

(ローベルト・ゼーターラー//著、浅井 晶子//訳 新潮社)

孤児院で育ったローベルトは、戦争の名残をとどめるウィーンで、小さなカフェを始める。わずかなメニューしか供さないものの繁盛し、さまざまな身の上の人が集まり…。名もなき人々の懸命な生を描き静かな感動を呼ぶ長篇小説。

『山の神の使い』

(最上 一平//作、マメイクダ//絵 童心社)

春の田植え、夏のひとり旅、秋の稲刈り。東京に住む大河が、おじいちゃんとおばあちゃんのいる山形からだっぴかいに感じる自然と、そこで暮らす家族のいとなみを、まっしうめんから描いた物語。

新着本から話題の本・おすすめ本を紹介します!

『算数がどんどん楽しくなる! おりがみあそび』

(園田 毅//著 主婦の友社)

小学校の入学前後で知っておきたい、図形のこと、角度のこと、算数の基本をおりがみ遊びを通して学ぶ。「おりがみ」を使って手を動かすことで、「算数思考力」「図形把握力」が身につく。

『どうぶつたちのおひっこし どうやってはこぶのか?』

(平山 暉彦//さく 福音館書店)

キリン、アシカ、トラ、ヤマアラシ…。動物園の大型動物や猛獣も引っ越しをすることがあります。どうやって運ぶのでしょうか? 様々な動物をケガをさせずに捕まえて箱に入れ、安全に運ぶための工夫を描きます。

※紹介文は「TRC MARC」より引用。すべて町立図書館蔵書。

虹のプラザ文化芸術プロジェクトマネージャーコラム

「挑戦を見守る広場へ」

vol.4

7月31日、8月1日に開催した「THE DANCE CIRCUS SHOW」は、おかげさまで二日ともほぼ満員でした。現代サーカス、ダンス、音楽、舞台美術など、様々な表現が虹のプラザの舞台上で交わりました。出演したアーティストや子どもたちはもちろん、会場に足を運ぶ同じ時間を過ごしてくださった皆さんも、この舞台をつくった一人です。

文化をつくるという、特別な技術を持つ人や、企画をする人だけの仕事のように感じるかもしれませんが、しかし、地域の祭りや昔から続く行事に参加すること、家に伝わる料理をつくること、子どもの話に耳を傾けること、誰かが始めた小さな活動に気をつけることも、この地域の文化をつくる大切な行為です。

私たちの日常では、失敗を避け正しい答えを早く見つけることを求められる場面が多くあります。だからこそ地域の中には、すぐに正解を求めず、誰かの挑戦を見守る場所が必要だと考えています。

表現の場では、やってみなければ分からないことを試し、自分なりに感じ、考え、誰かと共有します。そしてそれは、その過程に大きな価値が見つかります。

子どもたちが舞台に立つときも、上手くやることだけが目的ではありません。緊張しながら一歩前に出ること、仲間を感じること、自分の身体で何かを伝えること、



(写真 木村雄治)

えようとすること。その経験が、自分の可能性を信じる力につながっています。

それは大人も同じです。虹のプラザを完成させたものだけを見せる施設ではなく、挑戦の途中や失敗も含めて地域が受け止めて、見守る「広場」にしていきたいと思っています。

全員が舞台に立つ必要も、文化芸術に詳しくなる必要もありません。少し気になる。誰かに伝えたい。次も見てみたい。自分にも何かできるかもしれない。そうした小さな気持ちから、文化を続ける力になります。

文化をつくるのは、舞台の上の人だけではありません。挑戦する人も、それを見守る人も、その一人です。

それでは、また舞台で会いましょう。

虹のプラザ文化芸術プロジェクトマネージャー 大橋武司

町長コラム

「次世代へ虹をかける」

『ペそら漬に学ぶ』

皆さん、こんにちは! 以前は大石田まつりが終わると、気温も下がり秋を感じるようになったのですが、ここ数年は逆に暑さが厳しくなるような、そんな感じがする8月後半です。残暑厳しい毎日ですので、皆さんもお体に気をつけてお過ごしください。

さて、暑く食欲が落ちる夏、そんな時ピリッと辛く、酸味のある大石田名物「ペそら漬」が最高の飯の友であり、酒の友であると思います。私自身「ペそら漬」が大好きで、家業に従事している時は漬けながら毎日何個も食べました。現在では茗荷の葉やしその実と一緒に漬けたモノ、生の青唐辛子、ハバネロやジョロキア等々の激辛唐辛子を入れて漬けたモノ等々、様々な会合で出される各家庭で受け継がれてきた、そして新たな「ペそら漬」をいただくのも楽しみです。

そんな「ペそら漬」を漬けながら、私はいくつもの教訓を得ました。

その一つが、「物事に対して無理な急成長を望まず、一つ一つの積み重ねを大切にしよう」ということです。原料のナスが、天候によって気温が上がり、一気に成長してそれまでよりも大量に採れる日があります。見た目は立派で豊作に見えるのですが、急成長したナスは、皮が薄かったり、中身が伴っていないだったりして、漬け込む途中で不良になることが少なくありません。

そのナスを見ながら、急成長、急拡大しなくてもいい。自分の手が届く範囲で、判断できる速さで、一つ一つ積み重ねていくことが大切なんだな、と感じました。

しいて言うならば「ペそらの振り見て我が振り直せ」でしょうか(笑) 慌てず、焦らず、しかし歩みは止めず着実に良くなっていく。少しずつでも着実に町が良くなっていくように、町政運営に取り組んでいきたいと思っています。

大石田町長 庄司 中

vol.32

